

1人あたり玄米 60kgを寄贈 地域一体で能代工業バスケットボール部を応援



全国制覇を目指す能代工業高校バスケットボール部を応援しようと、JAと能代市は同部の寮生と下宿生に向けて、1人あたり60kgの玄米を寄贈しました。

この取り組みは「バスケットの街づくり計画」の一環として行われており、今年で3年目となります。贈呈にあたり、石山組合長は「愛

情込められた美味いお米をいっぱい食べて、全国制覇を目指し、より一層練習に励んで下さい。」と激励しました。

部員代表の児玉瑠生は「熱い激励と大きな期待を感じる。何事も執念をもって取り組み、全国優勝を目指して頑張ります。」と抱負を語ってくれました。



▶部員を激励する石山組合長

育苗管理向上による高品質米生産拡大を目指す 自慢の健苗で育苗技術を競い合う



JA稲作部会は5月9日、苗の生育確認と生産者の育苗管理向上を目的に、管内3地区合同の健苗コンクールを実施しました。

コンクールには合計33点の健苗が出品され、JA営農指導員や山本地域振興局農林部農業振興普及課職員などが、根の張り具合や苗揃えなど審査しました。その後、特に優れた健苗10点の充実度などを比較した結果、小森鉄雄さん（藤里）の苗が最も優秀賞に輝きました。優秀賞・優良賞は以下の通りです。▽優秀賞Ⅱ大塚健二、安井鐘悦、高田誠、安保広政、斎藤幸三、高山正人、加藤一志、工藤武一郎、齋藤幸三、小山ミヤ



◀管内農家自慢の健苗が揃った

JAキャベツ部会による現地研修会を開催 収穫期を目前に病害虫の防除徹底を呼びかける



JAキャベツ部会（工藤武一郎部会長）は5月30日、生育確認と今後の管理を検討するため、キャベツ現地研修会を実施しました。

約20名が参加した研修会では、JA営農指導員や山本地域振興局農林部農業振興普及課職員が、生産者の圃場4カ所を巡回し、生育や管理方針などを確認・指導しました。巡回した普及課職員は、「気温は高めで推移

していてコナガは昨年並みに発生している。また、今年はおムシの幼虫の発生も目立っており早めの病害虫防除等が必要。」と注意を呼び

掛けました。生産者からは収穫を前に、今後の対応策について話し合いました。



▶生育状況を見て今後の管理を検討した